

第2回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第2回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第2回福祉用具専門相談員研究大会概要

- 【開催日】 令和3年6月21日（月）
- 【大会テーマ】 福祉用具活用の更なる深化
～根拠に基づいた福祉用具の活用～
- 【会場】 日本教育会館（東京都千代田区一ツ橋2-6-2）
※オンライン併用
- 【主催】 第2回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
- 【共催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会
- 【大会長】 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長）
- 【副大会長】 岩元 文雄（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長）
- 【大会概要】 特別講演1題・口述発表30題
- 【参加者数】 921名（現地参加66名、オンライン参加846名）
- 【後援】 厚生労働省、東京都保健福祉局
（一社）回復期リハビリテーション病棟協会、（公社）関西シルバーサービス協会、
（一社）こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢・活動ケア研究会、
（一社）シルバーサービス振興会、（公社）全国国民健康保険診療施設協議会、（一社）
全国デイ・ケア協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、（公社）全国老人福祉施設協議会、
（公社）全国老人保健施設協会、（公財）テクノエイド協会、（特非）東京都介護支援専門員研究協議会、
（一社）ナチュラルハートフルケアネットワーク、（公社）日本医師会、（一社）日本介護支援専門員協会、
（公社）日本介護福祉士会、（一社）日本義肢協会、（公社）日本義肢装具士協会、（一社）日本車椅子シーティング協会、
（一財）日本車椅子シーティング財団、（一社）日本ケアマネジメント学会、（一社）日本言語聴覚士協会、
（一社）日本在宅介護協会、（一社）日本作業療法士協会、（公社）日本社会福祉士会、（一社）日本褥瘡学会、
（一社）日本生活支援工学会、（一社）日本ノーリフト協会、（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会、
（一社）日本福祉用具評価センター、（公財）日本訪問看護財団、（公社）日本理学療法士協会、（公社）日本リハビリテーション医学会、
（特非）日本リハビリテーション看護学会、（一社）日本リハビリテーション工学協会、（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク※50音順

第2回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告

「福祉用具活用の更なる深化 ～根拠に基づいた福祉用具の活用～」

令和3年6月21日（月）、天候にも恵まれ第2回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

本来は昨年6月に開催を予定していたところ、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して1年延期とし、現地参加とオンライン参加を併用し満を持しての開催となりました。結果として、現地開催のみであった第1回研究大会のご参加348名に対して、今回は912名と大変多くの方々にご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

開会にあたり、小野木大会長からは「科学的根拠に基づいたサービス提供が求められている現在、正しいタイミングで正しい福祉用具を提案できるようレベルアップに繋げていきたい」と大会テーマに基づいた挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省老健局高齢者支援課長の須藤明彦様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、日本社会事業大学専門職大学院客員教授であり元厚生労働事務次官の蒲原基道様より「高齢者の地域包括ケアと地域共生社会～福祉用具の活用を含めて～」をテーマにご講演いただき、地域共生社会という大きな視点から福祉用具専門相談員の専門性向上の必要性について分かりやすくお教えいただきました。

午後からは3つの会場に分かれて口述発表がそれぞれ実施されました。

第一会場ではテーマ2「地域、多職種連携の取り組み」を小島操座長（ケアマネウイズだ いこんの花 主任介護支援専門員）にお務めいただき7演題の発表が行われ、その後、テーマ1「福祉用具利用効果の追求」を北島栄二座長（福岡国際医療福祉大学作業療法学科 教授）にお務めいただき9演題の発表が行われました。

第二会場では、テーマ3「事業所としての取り組み」とテーマ4「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」を澤田篤座長（株式会社フロンティア）と水越良行座長（株式会社ヤマシタ）が共同で務め、テーマ3では3演題、テーマ4では4演題の発表が行われました。その後、当協会及び全国福祉用具専門相談員協会が過去に実施した老健事業の報告を実施しました。

第三会場では、テーマ5「新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み」を加島守座長（高齢者生活福祉研究所）にお務めいただき、7演題の発表が行われました。

全ての演題発表が終了した後、第一会場においてシンポジウムが開催され、5名の座長がシンポジストを、コーディネーターを岩元文雄副大会長が務めました。シンポジウムでは、それぞれ担当された演題発表の総括に始まり、大会テーマを通じた福祉用具専門相談員に対する提言や、第3回大会に向けた問題提起やエールをいただきました。

最後に閉会式では、第3回大会の大会長を務める岩元副大会長が、第2回大会が無事終了したことに対する御礼と、第3回大会の予告及び抱負を述べて第2回福祉用具専門相談員研究大会は幕を閉じました。

第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

11:00~11:40

(第一会場)

開会挨拶 小野木孝二大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課長 須藤 明彦 様



【特別講演】

11:40~12:20

(第一会場)

講師 日本社会事業大学専門職大学院客員教授 蒲原 基道 様

演題 「高齢者の地域包括ケアと地域共生社会～福祉用具の活用を含めて～」



第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表】テーマ2：地域、多職種連携の取り組み 13：20～14：30

(第一会場)

座長：ケアマネウイズだいこんの花 主任介護支援専門員 小島 操 氏

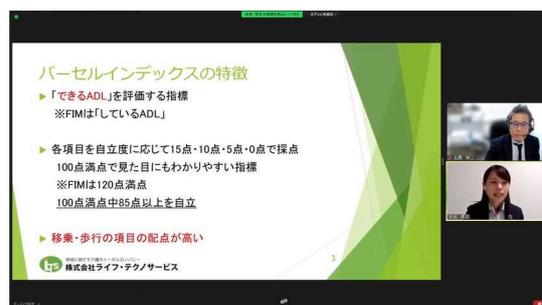


【口述発表】テーマ1：福祉用具利用効果の追求

14：40～16：20

(第一会場)

座長：福岡国際医療福祉大学作業療法学科 教授 北島 栄二 氏



テーマ3：事業所としての取り組み

【口述発表】テーマ4：経験3年未満相談員の福祉用具導入事例 13：20～14：50

(第二会場)

座長：株式会社フロンティア 澤田 篤 氏
株式会社ヤマシタ 水越 良行 氏



第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表】 テーマ5：新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み 13：20～14：30
(第三会場)

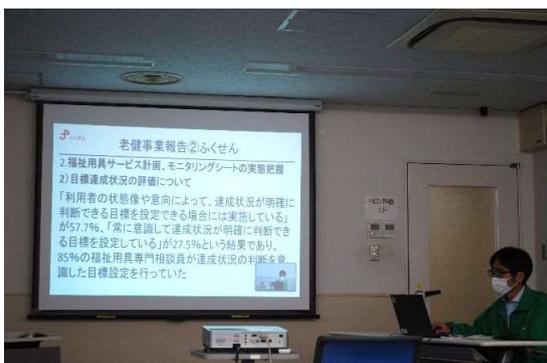
座長：高齢者生活福祉研究所 所長 加島 守 氏



【事業報告】 老健事業報告

15：10～16：10
(第二会場)

報告者：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会



第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【シンポジウム】

16:30~17:30

(第一会場)

コーディネーター：岩元文雄副大会長

シンポジスト：北島座長、小島座長、澤田座長、水越座長、加島座長



【閉会式】

17:30~17:45

(第一会場)

閉会挨拶 岩元文雄副大会長



第2回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

テーマ1 【福祉用具利用効果の追求】

座長:北島 栄二 氏

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	小松 優太	(株)かんきょう 埼玉支店	移動用リフトの可能性の理解と成功体験／外出編
2	清水 圭一	(株)柴橋商会	家庭での役割がADL改善に繋がった事例
3	石川 卓	(株)柴橋商会	車いす生活の一人暮らしの女性が歩行器を使って歩けるようになるまでの6年間
4	村上 博紀	(株)トーカイ 倉敷営業課	進行性疾患を持つ利用者の自己実現を叶えるため、屋内移動手段の提案による支援報告
5	大谷 智尚	(株)マルベリー さわやかセンター札幌東	自動ラップトイレ効果の追求 (介護ロボットにおける排泄ケアについて)
6	壽浅 賢二	(同)彩	住宅改修における福祉用具専門相談員の確認事項
7	沼田 一恵	(株)aba	障害者グループホームにおける福祉用具利用状況と世話人の対応(利用者の状態変化に着目して)
8	水谷 美菜	(株)ライフ・テクノサービス	バーセルインデックスによる福祉用具導入を含むサービス全般の効果測定を試行(福祉用具専門相談員としての専門性のアピール)
9	杉本 幸生	(株)トーカイ 中野営業所	車いすが使用者の『自分らしい生活』に与える心理的影響(福祉機器心理評価スケール(PIADS)を用いた心理効果の検証)

テーマ2 【地域、多職種連携の取り組み】

座長:小島 操 氏

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	千葉 誠彦	(株)マルベリー さわやかセンター帯広	多職種連携による福祉用具啓発活動の実施 (介護ロボット、福祉用具を通じて繋がる地域)
2	川口 雅弘	(株)マルベリー さわやかセンター釧路	福祉用具専門相談員と医療・多職種連携 (在宅生活を希望する高齢者の願い)
3	秋 嘉徳	(株)カクイックスウィング 鹿児島営業所	離島地域における多職種とのチームケア (島で迎える最期)
4	粕谷 佳紀	(株)トーカイ 足立営業所	ポジショニングとチームアプローチの必要性
5	山内 祐助	(株)トーカイ 町田営業所	訪問リハビリと連携し評価場面を共有した事で、タイミング良く福祉用具を見直しご利用者の自立へと繋がった事例
6	神山 亮輔	(株)トーカイ 中野営業所	今後の生活展開を考えながらリハビリスタッフと連携し車椅子調整を行った症例
7	馬場 亮佑	(株)トーカイ 今治営業所	回復期リハビリテーション病棟の退院支援について

テーマ3 【事業所としての取り組み】

座長:澤田 篤 氏・水越 良行 氏

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	小川 隆之	(株)美濃庄	人材教育事例、福祉用具専門相談員のスキルアップ研修(若手が関心を示す研修って何だろう?)
2	山本 隆裕	総合メディカル(株)	介護保険対象外商品についても選定根拠を作る取り組みと、次世代に繋ぐ啓蒙活動
3	浮島 和彦	(株)カクイックスウィング 延岡営業所	居宅介護支援事業所の加算算定研修への支援(ケアマネジャー向け研修会でお互いが得るもの)

テーマ4 【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】座長:澤田 篤 氏・水越 良行 氏

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	内田 圭一	(株)カクイックスウィング 鹿児島営業所	ノルディックポールの利用による満足度と生活意欲の向上(意欲が上がれば生活が変わる)
2	廣田 有香	(株)ヤマシタ 大津営業所	からだもこころも支える、リフトのある暮らし
3	清水 琴音	(株)トーカイ 岐阜営業課	福祉用具専門相談員の工夫によって外出可能な環境が整い、グループホームからの在宅復帰を果たした事例
4	山元 雄真	(株)カクイックスウィング 国分営業所	難病指定疾患(ALS)を抱える利用者の支援を経て感じた地域包括ケアシステムの重要性(インフォーマルサービスと介護保険サービスを融合した支援)

テーマ5 【新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み】座長:加島 守 氏

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	篠原 則正	(有)福祉の店アイコー	新型コロナウイルス感染防止対する取り組み
2	曾和 寛司	(有)スマイルケア	コロナ禍における福祉用具貸与サービスの継続的提供体制構築について
3	矢葺 達也	四国医療サービス(株)	新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み
4	國井 寿一	(株)タマツ	コロナ禍における業務取り組みの変化
5	古門 真	(株)ホームケアサービス山口 北九州店	新型コロナウイルスに負けない事業所運営(感染の徹底防止と柔軟な事業継続)
6	杉浦 良一	フランスベッド(株) メディカル横浜中央営業所	職場における、新型コロナウイルス感染症予防対策と、罹患者発生時の対応について
7	佐藤 大輔	(株)サンメディカル	オンライン担当者会議の現実と今後の課題(「会議や多職種連携におけるICTの活用」は浸透するのか)

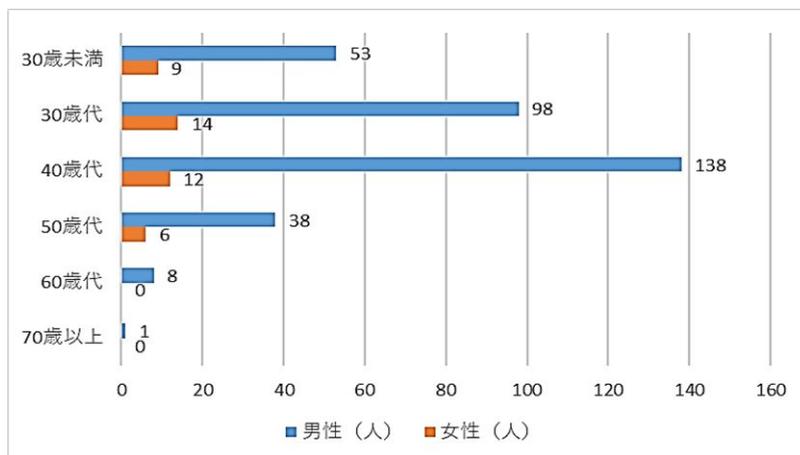
第2回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

アンケート概要

- 実施時期：2021年6月21日（月）～28日（月）
- 調査方法：eメールによるwebアンケート様式の配布・回収
- 回収状況：発送数838人／回収数377人／回収率45.0%

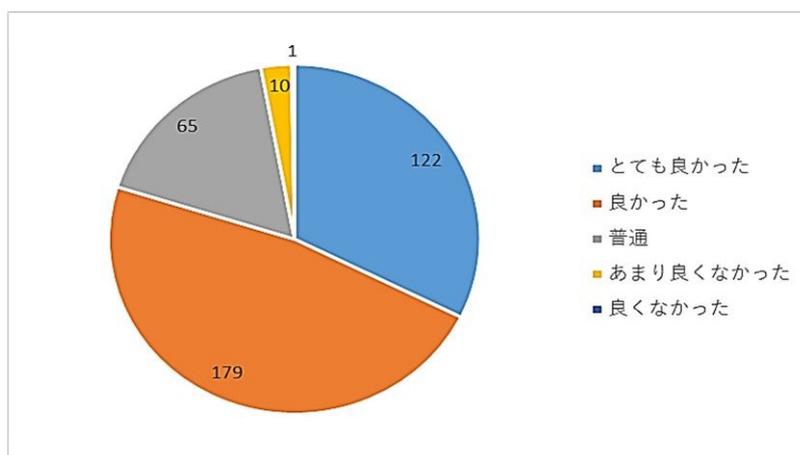
1. 基本属性について

	男性 (人)	女性 (人)	総計 (人)	構成比
30歳未満	53	9	62	16.4%
30歳代	98	14	112	29.7%
40歳代	138	12	150	39.8%
50歳代	38	6	44	11.7%
60歳代	8	0	8	2.1%
70歳以上	1	0	1	0.3%
総計	336	41	377	100.0%
構成比	89.1%	10.9%	100.0%	



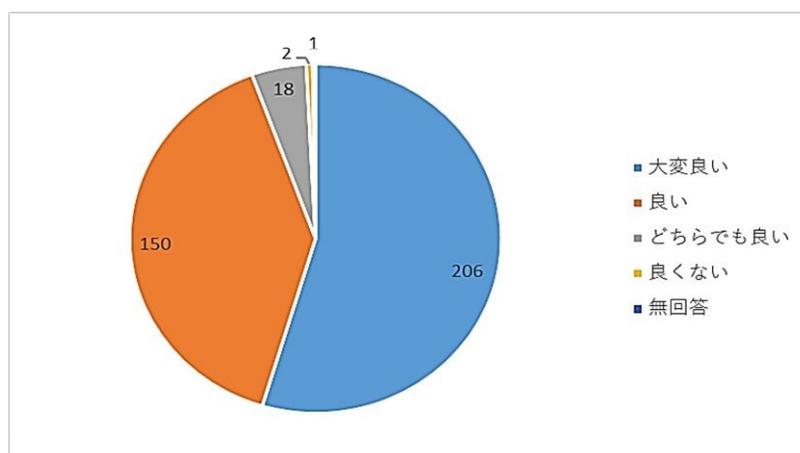
2. 全体の感想をお願いします

	人数	構成比
とても良かった	122	32.4%
良かった	179	47.5%
普通	65	17.2%
あまり良くなかった	10	2.7%
良くなかった	1	0.3%
総計	377	100.0%



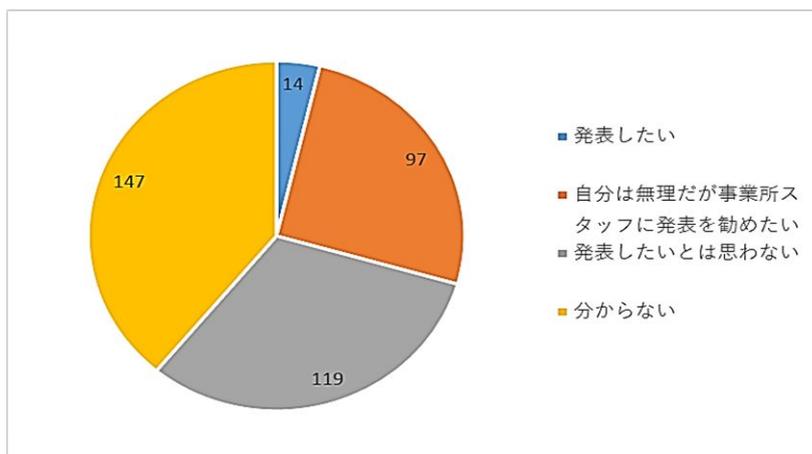
3. 今回のようなオンライン併用型の開催方法について

	人数	構成比
大変良い	206	54.6%
良い	150	39.8%
どちらでも良い	18	4.8%
良くない	2	0.5%
無回答	1	0.3%
総計	377	100.0%



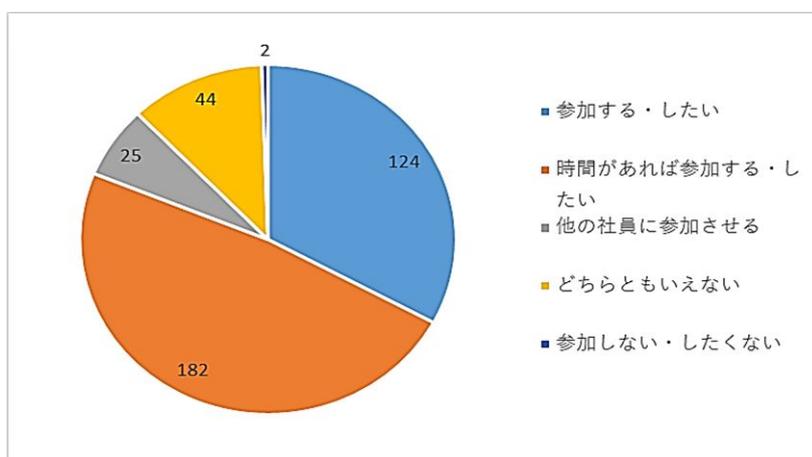
4. 来年はご自身が発表したいと思われましたか

	人数	構成比
発表したい	14	3.7%
自分は無理だが事業所スタッフに発表を勧めたい	97	25.7%
発表したいとは思わない	119	31.6%
分からない	147	39.0%
総計	377	100.0%



5. 次回の参加について

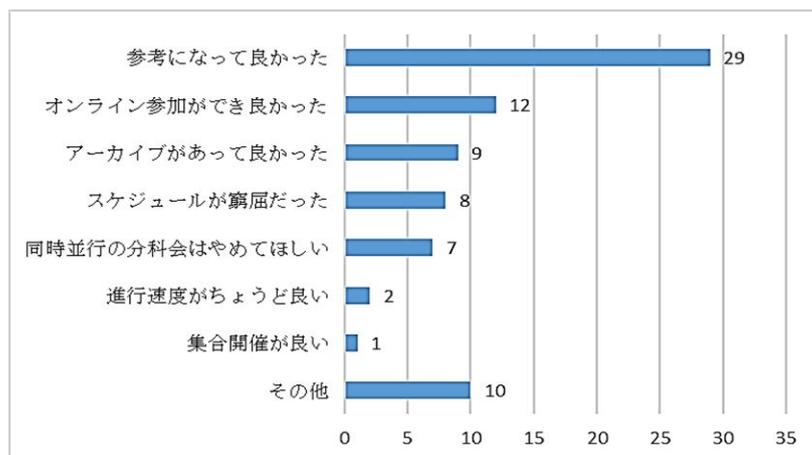
	人数	構成比
参加する・したい	124	32.9%
時間があれば参加する・したい	182	48.3%
他の社員に参加させる	25	6.6%
どちらともいえない	44	11.7%
参加しない・したくない	2	0.5%
総計	377	100.0%



6. その他ご意見など（自由記述）

回答	件数
参考になって良かった	29
オンライン参加ができ良かった	12
アーカイブがあって良かった	9
スケジュールが窮屈だった	8
同時並行の分科会はやめてほしい	7
進行速度がちょうど良い	2
集合開催が良い	1
その他	10
総計	78

※自由記述をカテゴリ化して集計



今月21日、福祉用具専門相談員が一堂に会し、さまざまな研究発表を行う「第2回福祉用具専門相談員研究大会」(主催:第2回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会)が、日本福祉用具供給協会・全国福祉用具専門相談員協会)が開催される。大会長を務める小野木孝二氏(日本福祉用具供給協会理事長)は、自立支援・介護予防効果に根拠ある福祉用具の活用を発信したいと期待を込める。(編集部)

2年前の2019年6月、介護業界として初と

第2回福祉用具専門相談員研究大会開催へ

小野木孝二大会長 「根拠ある福祉用具活用」発信を



小野木大会長

なる福祉用具専門相談員研究大会が開催され、350人を超える参加者にお集まりいただきました。研究大会の目的は発表内容から学びや新たな気

期となりました。それだけに今年オンラインも

に基いて福祉用具の機

す。現在もまた新型コロナウイルス

とと確信しています。

い。

づきを得、福祉用具専門相談員の専門性を向上させ、無事に第2回大会開催を迎えられることの喜びは非常に大きいものがあります。

第2回研究大会のテーマは「福祉用具の更なる進化〜根拠に基づいた福祉用具の活用〜」と設定

の専門性が「根拠」に基づいて必要な用具が必要

ナウイリスの脅威は続いており、介護保険利用者の中にはデイサービス等に行けず在宅で過ごす時間が増加し、心身機能が低下するリスクが指摘されています。

ナウイリスの脅威は続いており、介護保険利用者の中にはデイサービス等に行けず在宅で過ごす時間が増加し、心身機能が低下するリスクが指摘されています。

全体が切磋琢磨し、サービスの質向上につながる一歩になることを期待しています。ぜひ多くの方に参加していただきたい。

研究大会を通じて業界全体が切磋琢磨し、サービスの質向上につながる一歩になることを期待しています。ぜひ多くの方に参加していただきたい。

研究大会を通じて業界全体が切磋琢磨し、サービスの質向上につながる一歩になることを期待しています。ぜひ多くの方に参加していただきたい。

<開催概要>
開催日時：6月21日午前11時～午後5時45分。日本教育会館（東京都千代田区）とオンライン（Zoomウェビナー）で開催。特別講演は日本社会事業大学専門職大学院客員教授・蒲原基道氏。演題発表は「福祉用具利用効果の追求」「地域・多職種連携」「新任相談員の実践」「新型コロナウイルス対応の取り組み」などテーマ別に30組の個人・チームが発表予定。参加費は5千円（会員）・1万円（一般）。申し込みは研究大会のサイトから。問い合わせ03・6721・5222（日福協）

大会長 小野木孝二氏（日本福祉用具供給協会 理事長）

福祉用具の安全な利用を推進したい



研究大会の概要

も参加してもらえ。専用回線を使って視聴トラブルなどがないうようにした。参加登録した人にパスワードを渡して見逃し配信ができるようにするほか、後日、当日の事例集を送付する。オンラインは、アフターコロナになっても有用だ。

5つのテーマ

コロナ禍で1年延期の第2回福祉用具専門相談員研究大会がいよいよ、6月21日に東京・一ツ橋の日本教育会館で会場とオンラインの両方で開催する。福祉用具ニーズのますますの広がりの中で、福祉用具専門相談員の専門性の向上、多職種との情報ネットワークの構築、科学的エビデンスの構築を進める大会をめざす。1年延びたことで、感染対策など、福祉用具専門相談員のコロナ対応もテーマに加えた。OTやPT、ケアマネジャーら関係職種の人たちにも参考になる研究大会になればと願っている。特別講演は浦原暹道元厚生労働事務次官を予定する。老健局長も歴任し、今後の福祉用具レンタルの在り方に言及していただきたいだろう。

研究大会は3テーマ。日々の取組の成功事例が集った。「福祉用具利用効果の追求」（北島栄二座長）9演題、「地域・多職種連携の取組」（小島操座長）7演題、「事業所としての取組」（澤田篤・水越良行座長）3演題、「第2回からの新テーマとして」「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」（同上）4演題、「新型コロナウイルス感染症に対応する取組」（加島守座長）の発表があり、座長が講評する。福祉用具の有効活用事例や人材育成など、現場での経験を踏まえた成功事例が集まった。ぜひ多くの福祉用具専門相談員に参加していただき、現場の経験を共有する学びの場としてほしい。

経験3年までの導入事例

独居のALSの利用者を介護サービスとインフォーマルサービスを使って支援した、特養入所者の80代女性がリフトを導入して在宅復帰した、ノルディックポールの活用で脳梗塞後遺症の利用者の歩行姿勢を安定させたなど、これらは経験3年未満の発表事例。

ケアマネジャーの信頼も高まる。福祉用具専門相談員にとってケアマネジャーの信頼を得ることは最も大切なことであり、新人にとっても研究大会がその足がかりになる。

不断の日々の研修

21年改定は、福祉用具専門相談員の退院時カンファレンスの参加や入浴の環境整備など専門職としてスキルアップが求められる改定になった。関連する演題が多いので注目している。福祉用具専門相談員はふだんから自己研鑽に取り組み努力義務があり、日本福祉用具供給協会やふくせんで様々な研修を実施している。多職種連携を進める

手前にある住宅改修

特に、療養環境を一人ひとりの心身状況に合わせて生活しやすくする住宅改修は、福祉用具レンタルの手前にある重要なサービスだ。しかし、専門職能力が乏しく、福祉用具業界がしっかり使われるために、住宅改修が大切なことはいまも変わらない。福祉用具専門相談員は、住環境整備についても提案力を高めてもらいたい。研究大会でそうした発表もあるだろう。

SDGsと福祉用具

持続可能な社会をめざすSDGsの潮流の中で、福祉用具レンタルはこれ先取りしている。弊社トーカーで、レンタルによって年間約5000トンの廃棄物削減につながっている試算をした。販売レンタルによる廃棄物の差を、レンタルの平均利用月数（たじきは13.8カ月）と、レンタル耐用年数

（たとえば17年間）との差で算出した。当社1社の数字だ。レンタルの拡大によって、SDGsへの貢献度はさらに高まると思う。

次期改定へ課題に向き合う

改定論議の中で今後の課題として福祉用具の安全性の確保、貸与と販売の種目の在り方が上げられた。

福祉用具の安全性の確保は、現状では福祉用具専門相談員個々の力量に依存している。そこで、安全に関わる事例やリスクに関する情報を、すべての専門相談員が共有できるようにしたい。今年度の国の老健事業では、日福協において、「福祉用具の利用安全の推進のための調査研究」に応募している。その成果も踏まえて、福祉用具の安全な利用を推進していきたい。

川柳コンテスト応募5千件超

本研究大会と並んで、福祉用具の普及・向上をめざす「10月1日は福祉用具の日」の取組があり、全国各地でイベントが開催されている。「福祉用具の日」を記念して、「福祉用具川柳コンテスト」を実施した。3月末締めで、応募総数は5万155件（有効応募5万727件）に及んだ。今後審査し、最優秀賞には10万円を進呈する。発表式典は11月11日「介護の日」。国際福祉機器展（HCRC）2021の2日目にあたる。

国の科学的介護情報システム「LIFE」への対応の準備を進めている。福祉用具レンタルは加算がつかないが、国が求める事例を集める。福祉用具の有効性をエビデンスをもって示していきたい。特に軽度者の福祉用具の有効性を明らかにできればと思う。

これだけ多くの応募があったのは、福祉用具がより身近な存在になっている証だと思う。どのような川柳が寄せられたのか、楽しみにしている。

副大会長 岩元文雄氏（全国福祉用具専門相談員協会 理事長）

専門性を活かす好機に



「まもなく福祉用具専門相談員研究大会が開催されますが、

昨年度開催予定だった第2回研究大会を1年延期し、いよいよ今年6月開催の運びとなりました。今年度は会場とオンラインを組み合わせた研究発表等の実施を予定しており、全国各地から参加しやすくなったのではないかと考えています。

私は研究大会のように「発表の場が用意されていること」の重要性に注目している。専門相談員が発表に備えて考え、思考をまとめることが専門性の向上につながると思うからだ。また、そういった場に参加して聴講することによって、自身の仕事に活かせるようになる。

注目のテーマは盛りだくさんだが、そのうちの1つに「バーセル・インデックス（BI）導入による福祉用具導入を含む

サービス全般の効果測定の実行」がある。

ADLを量的に評価するための代表的な指標であるBIは、科学的介護促進を目指した「LIFE」でも主要なデータ提出項目となっているが、専門相談員もBIを意識した福祉用具の選定・モニタリングを試行する発表だ。

例えば、平地歩行の評価項目において、現状では「介助レベル」の10点であるが、歩行器や杖を使用することで「自立レベル」15点の向上した効果判定となる。また、歩行することができないが、車いすを利用することで「車いす駆動レベル」の5点の判定となるため、より高いレベルのADLの表現を目指す。福祉用具提案ができるからだ。

その数値化された結果を見て、新たな提案ができる点で、福祉用具サービスのPDDCAサイクルを科学的に進めやすくなる。数値化できることで、多職種連携の意味でも、在宅に関心をもちOT、PTからアドバイスをお願いしながら進めやすくなってきているのではないかと。

ほかにも地域、多職種連携への取り組み、新型コロナウイルス感染症に対応する取り組みなど数多くのテーマが予定されているので、会場でも、オンラインでも奮って参加いただきたい。

2021年改定で福祉用具専門相談員の専門性に対する評価が高まったと感じますが、一定の評価を頂いたことは喜ばしいことだ。福祉用具専門相談員（以下「専門相談員」）が参加するカンファレンスが居宅介護支援事業所「退院・退所加算」などの要件に明文化された。つまりケアマネジャーの情報連携先である介護施設等から、退所時に福祉用具や住環境整備に関する専門家として参加要請をいただく機会が増えることが期待できる。

カンファレンスで、必要に応じて助言ができる職能として専門相談員が認められたことは大きなステップアップだ。医療機関に地域連携室の設置が広がるなど、主体的・積極的にかかわりやすい環境も整ってきた。

専門相談員が関わることの重要性・有効性は、14年度の老健

事業（介護保険の福祉用具サービスにおける専門職の関与と適切なケアマネジメントに関する調査研究事業）報告書（日本作業療法士協会）でも示されたが、今回の改定でそれが制度化に明確に位置づけられたというわけだ。

チームケアの一員に明確に位置づけられたことが、重責を感じる専門相談員も多いと思います。

国はチームケアを重視している。その中に専門相談員も位置づけられた。カンファレンス慣れた多職種が集まる場に参加するにあたって、当会でも、基本的な重要な点とまとめた書籍を作成している。

こうしたツールも活用いただき、福祉用具の専門家として多職種連携を図ってほしい。

カンファレンス参加に対する専門相談員への報酬上の評価がないことを指摘する声もあります。

そうした指摘も承知している。ただ、多くの専門相談員は退院・退所時のカンファレンスに参加したいと思うはずだ。

なぜなら本来、専門相談員は「よりよいアセスメントをして最適な福祉用具や住環境整備を提案したい」と考える職業人だからだ。「このような疾病があ

り、予後はどうか。これまでどのようなハビリティに取り組み、今現在できることは何か」と、利用者の背景が知りたいと思う。多くの専門相談員は、そうした職責を担っているという理

解いた方がいいだろう。同時に、意見を伺い、意見を言える関係は、良い意味で専門相談員の刺激にもなり、専門性の高い提案のためには勉強をしないとイケない。少なくとも「言われた通り届けるだけ」ではないということだ。お客様との接点は、今後ますます病院・施設等のリハ室から始まると思う。事業者規模の大小に関係なく、お声かけがあればカンファレンスに参加することが当たり前になるだろう。

福祉用具の安全な利用のために専門相談員の果たす役割も、改定のポイントですね。

公的機関から一般ユーザーに事故情報をもたらされるが、その情報を専門相談員が利用者へ伝え、情報活用を推進することが期待されている。現状では、福祉用具事業者でも情報感度という意味では、専門相談員によって温度差がある状態だ。

当会としては、福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）等の受講を通じて、一人でも多くの専門相談員に新製品情報や、刻々とアップデートされる事故情報に触れてもらうことが重要と考えている。

安全な製品設計なのに想定外の使用法などにより事故が発生してしまう。「考えもしなかったが、危険だな」と気づいた専門相談員が速やかに情報をフィードバックすることで、他の専門相談員と情報共有できれば事故の未然防止という意味で効果的だと考えるからだ。

国が検討をしている指定講習カリキュラム見直しで、初任者に「事故情報はキャッチアップして、フィードバックすることが同様の事故を起こさないために有効である」ということを学んでもらう、ベテランにも更新研修で最新の事故情報などに触れてもらうことは非常に有効だと考えている。

また、20年度の厚生労働省介護保険担当課長会議で高齢者支援課はハンドル形電動車いすの安全性に関する取り組みを上げていたが、これに対応するため、当会では20年度の老健事業で、専門相談員がハンドル形電動車いすを貸与する際に利用者の安全利用に係る考え方やポイントを整理したガイドラインと指導手順書を作成した。成果物はホームページに掲載している。

ので、ぜひ活用いただきたい。

第2回福祉用具専門相談員研究大会（小野木孝二大会長）が21日、東京都千代田区の日本教育会館で開催された。オンラインとの併催で約880人が参加した。

小野木大会長は開催挨拶で昨今のコロナ禍でデ



蒲原氏

第2回福祉用具専門相談員研究大会開く

小野木大会長 「根拠ある福祉用具活用でレベルアップを」

蒲原元厚生労働事務次官 「資質向上と評価システム構築必須に」

でも福祉用具は感染リスクが低い非接触型サービスとして果たすべき役割が大きくなっている。こ

うした中で、福祉用具を正しいタイミングで正しく利用することが要介護の維持・改善や自立

科学的介護情報システム（LIFE）に対し「データで把握することで福祉用具も科学的根拠に基づ

待していると話した。元厚生労働事務次官を務めた蒲原基道氏（現日本社会事業大学専門職大

しかも人を介したサービスと違って本人の意思で常時利用することができる。ケアマネジャーやヘルパーとの連携で、福祉用具の良さがさらに発揮できると期待している」とメールと送った。介護ロボットなどテクノロジーを活用した新たな福祉用具の開発が進むなか、汎用性のある機器の利用を支援する仕組みや評価システムの構築などが必要だと話した。

第2回福祉用具専門相談員研究大会レポート

第2回福祉用具専門相談員研究大会が6月21日、東京都千代田区の日本教育会館（一ツ橋ホール）で、「福祉用具活用の更なる進化（根拠に基づいた福祉用具の活用）」を掲げて開催された。コロナ禍で2年ぶりの研究大会は、30の演題の大半がリ

モート発表だったが、会場参加者66人、オンライン登録846人の計912人の聴衆を前に、福祉用具で生活が向上し、介護負担が軽減した介護現場の事例が発表された。一年延期後の開催となり、コロナ対応や経験3年未満者の発表も加わった。

研究大会が福祉用具専門相談員 念ずること、研究大会へ熱いエールの資質向上につながることを祈る。

蒲原元厚労省事務次官

「用具で生活を支える。大切なモータリング」



続く特別講演には、元厚労省事務次官の蒲原基道氏（日本社会事業大学客員教授）が登場し、「高齢者の地域包括ケアと地域共生社会」福祉用具の活用を含めて「テーマに、地域共生社会の実現を訴えた。

蒲原氏は、福祉用具専門相談員は「機能」の提供という福祉用具の生活を踏まえ、人によるサービスと連携しながら、高齢者の生活を支えていく「専門職」として、地域共生社会実現の大切な役割を担っている話した。「用具の機能が常時果たせるよう、利用開始時点、それ以後も定期的に、高齢者本人の状態を把握し用具の調整を図っていく。そのためには、ケアチームの一員としてケアマネジャーやヘルパーらの連携が欠かせない」と述べた。また、研修の機会などを通じて、スキルアップを図ることや、ケアマネジャーらの評価も受け止める仕組みも必要だと説明した。

須藤高齢者支援課長

「非常に重要な福祉用具。テクノロジー活用へ」



とって非常に重要な役割を担っている。今回の改定では、福祉用具専門相談員に退院・退所時カンファレンスの出席が位置づけられた。今後は、福祉用具の安全な利用や介護現場の生産性の向上をめざして、福祉用具をはじめ、テクノロジーの活用を進めていきたい。第2回となる

小野木大会長

「用具効果を根拠もって示したい」



冒頭、小野木孝二大会長（日本福祉用具供給協会理事長）は、「新型コロナによって在宅介護が増えたが、福祉用具は非接触

型サービスの特徴をもち、サービス機会が増えた。21年改定で介護保険は科学的介護をめざすLIFEの導入があり、今後、バーセルインテックスを用いて、利用者のADL（日常生活動作）の改善効果を示していきたい。今研究大会は、注目すべきたくさん事例が集まった」と挨拶した。

第2回 福祉用具専門相談員研究大会

／第2回 福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

福祉用具専門相談員研究大会実行委員会は6月21日（月）、2回目となる研究大会を日本教育会館 [一ツ橋ホール] で開催した（共催：（一社）日本福祉用具供給協会／（一社）全国福祉用具専門相談員協会）。

今回は大きく5つのテーマでプログラムを構成。実務から生じる様々な課題を題材に発表がなされ、活発な意見交換が行われた。当日は会場での開催とともにオンラインでも開催され、延べ1,000名にも及ぶ参加者が集った。



挨拶する小野木孝二大会長

問合せ先／事務局 TEL:03-6721-5222 URL:<https://www.fukushiyogu.or.jp/>

福祉介護テクノプラス 2021年8月号 46頁

会員ログイン
メンバーページ入り口

メールでのお問い合わせ

福祉用具メーカー
からのお知らせ

災害協定について

当協会について

事業案内

福祉用具選定士

日本福祉用具協会の
様式・書籍等のご紹介

会員専用無料法律相談

会員専用総合補償制度

入会についての
資料請求はこちらから

地域毎の活動

当協会が実施した
調査研究事業

リンク集

「福祉用具の日」



一般社団法人
日本福祉用具供給協会

〒105-0013
東京都港区浜松町2-7-15(三電舎ビル4階)
TEL 03-6721-5222 (代)
FAX 03-3434-3414

第2回

福祉用具専門相談員 研究大会

福祉用具活用の更なる深化 — 根拠に基づいた福祉用具の活用 —

祝辞

[園田 修光 \(そのだ しゅうこう\) 参議院議員](#)

[田村 憲久 \(たむら のりひさ\) 衆議院議員](#)

[古屋 範子 \(ふるや のりこ\) 衆議院議員](#)

(五十音順)

動画アーカイブ

第2回

福祉用具専門相談員 研究大会

福祉用具活用の更なる深化
— 根拠に基づいた福祉用具の活用 —

2021年6月21日(日) 日本教育会館(一ツ橋ホール) **第一会場 ①**

開会式	0:00:49～
特別講演	00:24:01～

[特別講演の資料はこちら](#)

第2回

福祉用具専門相談員 研究大会

福祉用具活用の更なる深化
— 根拠に基づいた福祉用具の活用 —

2021年6月21日(日) 日本教育会館(一ツ橋ホール) **第一会場 ②**

テーマ2【地域、多職種連携の取り組み】

座長：小島 操 氏

千葉 誠彦	00:01:42～
川口 雅弘	00:11:33～
秋 嘉徳	00:22:13～
粕谷 佳紀	00:33:09～
山内 祐助	00:43:20～
神山 亮輔	00:53:38～
馬場 亮佑	01:02:43～



テーマ1【福祉用具利用効果の追求】

座長：北島 栄二 氏

小松 優太	00:00:05～
清水 圭一	00:11:58～
石川 卓	00:21:16～
村上 博紀	00:32:18～
大谷 智尚	00:43:56～
壽浅 賢二	00:55:34～
沼田 一恵	01:06:07～
水谷 美菜	01:16:41～
杉本 幸生	01:27:20～



シンポジウム	0:00:06～
閉会式	1:04:44～



テーマ3【事業所としての取り組み】

座長：澤田 篤 氏・水越 良行 氏

小川 隆之(前半)	00:01:46～
山本 隆裕	00:07:16～
小川 隆之(後半)	00:19:31～
浮島 和彦	00:30:42～

テーマ4

【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】

座長：澤田 篤 氏・水越 良行 氏

内田 圭一	00:52:17～
廣田 有香	01:03:14～
清水 琴音	01:14:08～
山元 雄真	01:25:07～
老健事業報告1	01:36:56～
老健事業報告2	02:02:03～
老健事業報告3	02:22:19～



テーマ5

【新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み】

座長：加島 守 氏

篠原 則正	00:01:22～
曾和 寛司	00:09:14～
矢貫 達也	00:16:55～
國井 寿一	00:32:56～
古門 真	00:40:22～
杉浦 良一	00:48:06～
佐藤 大輔	00:56:03～

[ログアウト](#)

第2回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

- 大会長 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長）
副大会長 岩元 文雄（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会理事長）
大会顧問 幸田 正孝（元 厚生省事務次官）
山内 繁（元 国立障害者リハビリテーションセンター研究所長）

第2回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

- 委員長 荒井 祐子（有限会社スマイルケア）
倫理委員会委員長 白澤 政和（国際医療福祉大学大学院）
査読委員会委員長 東島 弘子（国際医療福祉大学大学院）
委員 千葉 博（株式会社サカイ・ヘルスケア）
佐竹 学（株式会社トーカイ）
古沢 林太郎（株式会社トーカイ）
肥後 一也（全国福祉用具専門相談員協会）
福島 伴彦（全国福祉用具専門相談員協会）
中村 一男（全国福祉用具専門相談員協会）
柳田 磨利子（全国福祉用具専門相談員協会）
池本 和樹（全国福祉用具専門相談員協会）
伊藤 広成（日本福祉用具供給協会）
淡路 陽子（日本福祉用具供給協会）
運営指導 小林 毅（日本医療科学大学）
顧問 酒井 博人（総合メディカル株式会社）

次大会告知：第3回福祉用具専門相談員研究大会

【大会テーマ】

福祉用具の未来につながる専門性の追求
～PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～

【開催日】

令和4年6月16日（木）

【会場】

ニッショーホール（東京都港区新橋1-1-19）

【大会長】

岩元 文雄：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長

